燕石十種

六輯十

081
10
32

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10

ガラス使用

燕石十種

六輯十

東京圖書館
和書門
叢書類
二五函
六架
一五號
六〇冊
上
特別
61
3

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10

ガラス使用

燕石十種第六輯卷十

芝居町ヘ御觸書

慶安元年子七月十日御觸速判

一此以前義如申付ハ宿ニ候ニ付無拠成儀ニ
法度ニ候 仰付ハ遠有ニ付ハ穿鑿之意
度事ニ候 仰付ハ事

子七月

慶安二丑三月

居上手形之事

東京圖書館藏書

東京圖書館藏書

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10

ガラス使用

一 前かどゝかゝ 御付は通如もおどりゆゑ有は
一 踊子御者ニ至る何方か唯ニ乗りは其乗物ニ入ることニ
乗ゆゑ有は若乗はさ横合かゆゑ以て急度
曲事ニ至る 御付は為後日手形若上ゆは
依如件

堺町 上ゟ里

蘿广

七郎右衛門

外記

寿安二年丑三月

寿安五年辰六月廿七日内御連判

一 此度若尻ニ奇舞妓 渉法度ニ付 御付は所中
ゟ一奇舞妓子ニ相成 悴抱金銀ニ最苦界為
致ゆゑ有事

日 源左衛門

日 五郎右衛門

日 茂兵衛

桃返ニ 菩提寺

日 武蔵

国立国会図書館 燕石十種. 第60冊 わ081-10
ガラス使用

一町中ニ而ハ女前ニ而ハ御法度ニ而ハ抱ニ而ハ其の
いへ女をハ不及申ニ而家主ニ急度曲事ニ至
仰付ハ事
辰六月

兼憲二年己丑月十一日御觸出判

一昨日町中ニ而ハ庇居ニ出入有之ハ諸ニも御法度ニ而
庇居ニ成申ニ而ハ若有之ハ御のてハ申ニ而ハ老ニ
急度曲事ニ可申付ハ若有之ハ不法者ハ町中
ニ老法分吳兄申 取引ニ而ハ可申ニ御番所ニ

可申之ハ事

一前ニ而ハ如申付ハ其ハ女抱ニ而ハ御かせ申ニ而ハ
前ニ而ハ其の抱ニ而ハ其老急度曲事ニ可申付
家主ニ成も穿鑿ニ之急度可申付事
己丑月十一日

明暦元年未丑月御觸出判

一諸ニ而ハ御法度ニ通相ニ云ハ御大名御屋敷方ニ
御暇ハ其ハ何ハ仕ニ而ハ勿論ニ御暇ハ接成相ニ也
申ニ而ハ其ハ人家ニ おぢりニ而ハ相ニ仕ニ而ハ

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

事 敬下御屋敷方ニ云右唯以其 敬下ニ亦奇者
妓ニ其後 高原ニ 稱 如も 仕事敬ハ 程云 尽ニ
之のたとへ一事人ハ屋敷方ニ此唯ハ其 蔵 高原
ニ 其似仕事敬事

未五月

寛文元年丑十二月廿二日 御鈎

一 諸兄 物芝居 物仕ハ若ハ 堺町 菅屋町 木挽町五丁
目六丁目此所ニ 仕ハ 自今以後 他所ニ 町中ニ 望
仕事敬事

一 勅定相撲前ニ分町中ニ 法度ニ 曾祢 其 者 惣
町中ニ 為 被中事敬ハ 附めて 的町中ニ 為 仕
中事敬ハ
勅定能仕ハ者 於 其ニ 町年寄方ニ 其 行 可
中事

丑十二月廿二日

右御鈎町年寄 元ニ 月行事 被 請判ハ

寛文二年寅正月十八日中 後

一 堺町 菅屋町 木挽町五丁目 相云 尽仕方 無 其

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

きゆうのそのたゝ金銀ゝ杖突其ゝ唐織なと若し
奈中ゝ自今以後左様ゝ風情仕る事
正月十八日
一 野良ゝ案内ニ而方ゝ所りきゝ此所ゝ百ゝ自
今以後ゝ為ゝ給ゝ想るとき所りき仕る事ゝ事
一 菅屋町河岸端ニ而在ゝ寺銭菓屋向後金中ゝ
事
正月十九日
一 野良ゝ若方ゝゝ為ゝ吟味難成ゝ人ゝ堺町

菅屋町ゝ以ゝ木挽町ゝ町目の内ゝ事ゝ若ゝ
仕ゝ深仕形辞せ所きゆう粗云ゝ事ゝ屋ゝ方ハ不
及中町方ゝ事一切猶所望き仕る事
正月廿日
右四ヶ條奈良屋ニ而ゝ名主月行事并勤を
本ゝ以中渡ゝ
完文六年 午六月十一日 中村町中連判
一 町中ゝ似を野郎ゝこしらへ付髪装束なと致持来
方ゝ系又借装束なと粗云致させ由ゝ所ゝ

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

自今以後改之者抵之者於見之者捕て者かい
若縁分者皆以大家五人組て為曲事者之
午六月

完文八年申三月沙鍋

一堺町末挽町見せ物不て結構に并惣役者衣類
給紬木綿て忌之但舞屋衣装す平角羽二重
給紬て為紺屋染物紫裏紅うら紫頭巾縫類
停止之事

附舞屋之端酒木綿之幕不苦

但紫端酒を無用之事

一人形装束不て結構仰ゟも令銀之押給可為
無用事

但大将人形斗忌がし令銀ふ苦事

一堺町末挽町野良舞屋之粗云仕也有公人と不て
お今を陸為百姓町人猥に糸今長吐為鉄万数
事

附機数に幕簾絲屋ゟ万数事

申三月

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

右之通向之日御觸是之

天和三年 亥二月十八日 御觸

一堺町菁屋町木挽町兄を拘不て結構に并惣役
志人形衣類結袖木綿麻布て忌之事

附帯幕同前之事

右之通ニ候出ハ望て右当之義有者於有之
志抱之役志を主人を店借を家主を家持を五人
組名主を急度曲事にて申付志也

亥二月

右を右町之日御觸

元禄二年己巳六月廿六日 御觸町中連判

一狂云芝居之野良并宰人野良又を役志不取出ハ
前髪有之者方之日悉シハ出有御ハ前之分御法度
之如之不届ニ向後何方ニも添以望悉シ申当度ハ若
有者何方ニ成悉シ以て其主人を不及申家主五人組
店五人組を急度曲事にて申付 曾 此旨望可
有者也

元禄二年己巳六月廿七日 御觸

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

一堺町菁屋町本挽町之外ニ方ニ之ニ芝居ニ出申ハ
野良并宰人聖良抱無ハ者ニ由相変ハ今日中ニ
委細書付町年寄方ニ下申来ハ若隠無重る脇ニ
相知れハ急度ニ出 仰付ハ当ニ御ニ下申来ハ
右之通町中相観穿鑿ハ有無之返事ニ
今日中 森多村役所ニ月行事ニ形持来ニ下申ハ
かも油行 有当 發ハ以上

巳六月廿七日

町年寄 三人

右ハ観ニ江戸中聖良ニ而ニ書上ニ受

聖良并宰人親家宰 而人組名宰 翌廿八日甲斐
庄龍孫当 横ハ番所ニ出 石ハ 江戸中ニ野良
其不残 繋ニ厚サ 而分ニ判おろし 果ニ
御番所ニ召連ハ目ニ無ニ下申 向後聖良ニ候ハ
ハ法度ニ出 仰付堺町本挽町ニ聖良ニ右之通
繋判おろし 只今迄之通り芝居ニ出ハ分 斗
ハ報免之分ニ候 渡手外ニ かげ まゝ分 皆ニ
繋判おとし 宰人方給金ハ 換金ニ致 請人或ハ
親ニ方ニ 場ニ給ニ 仰付 重る聖良ニ賣ハ 曲事ニ

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

て云 仰付順 御番所ニ為御院文ニ 仰付翌日
いと驚き判あり 御番所ニ石連所出ニ御目
中ニ

元祿二年己丑月廿六日 金八ツ時

一 町御奉行所様ニ御使ニ為堺町菁屋町本挽町
狂云座ニ表名題看板ニ至ニ鄙良役志ども 貂ニ
御書写御通りニ成同日當時町年寄樽屋茂左衛門ニ
右三町ニ座元并町内年寄ニ御呼ニ成 町内ニ居ニ
聖良子供舞臺ニ出ル事ニ下地子供并田屋

芝居ニ出ル聖良浪人聖良ニ不残ニ書ニ生国親
兄身請人所附書付ニ居ル分ニ御渡ル

一 同六月十八日 飛弾掾御内寄合ニ堺町勘三郎
并鄙良子供年寄太郎兵衛菁屋町行ニ至并聖良
子供名主庄右衛門本挽町長右衛門同町勘弥并聖良
子供名主孫右衛門七兵衛ニ石ヲ御渡ル前ニ分
聖良子供他所ニ居出ル義ハ 御法度ニ云 仰付ル所
以日猥ニ歩行ニ至ニ役志ニ外ニ膽ニ鄙良共数多
抱金方ニ有ルカ世ル義役志ニ名存隠金ル事

不届ニ付叱被急度被成候 仰付候処御定書之趣ニ
自今以後縦令ニ野良抱置候者有之ニおゐて不隠置
早々て申上ヘし野良共者他所ニ居候ハゝ猶更手前ニ
而召候客共申合候若者共背ニおゐて当人ハ不及申
家主五人組迄も人組之曲事ニて 仰付ヘき
狂言座ニ居候野良ハ月代を急ニ剃させ可申付
前々之通り相勤候様ニ 仰付候ニ付自今以後野良
子供抱申間敷旨ニ付 仰付其上ニ御法度之儀 仰付候
右之段田舎芝居ニ野良浪人

野良之地子共之主人手前ニ御放逐被下 親共ニ
被下自今以後野良役者共香具売之者共ニ
出シ申間敷旨ニ 仰付親共其外之人々ニ御法度之
ニ 仰付ニ右野良共之月代急度剃させ候様ニ
被渡候

一同月廿八日　花源寺様御番所ニ而狂言座ニ居候ハ
野良子供ニ召出月代御法度之通ニ

一八月廿四日　安房守様御番所ニ而狂言座ニ居候
野良子供ニ召出月代御法度之通ニ重而月代なて申

万数分ら　仰付ぶんに厚サ壱寸六分に定　木
御渡ハ相ハ

元禄四年　未十月廿四日御鶴町中連判

一　頃日町中ニ茶賣屋びを清ゑハいとの有ニ宰令
ハ　仰付ハ屋びに不限縦犬猫鼠ニ至ル生類ニ藝を
仕付ケ見世物ニ致ハ義ニ為無用生類をくるし先不屋
ニハ若相背者ハ見しハて急度曲事たるへき由ら
仰渡ハ当ハ此分堅ニ相当ハ
未十月廿四日

元禄七年　戌七月廿六日御鶴連判

一　前ニも相觸ハ通り粗云芝居ニ師良浪人理良又ハ
役者ニおさる前髪有ニ者并女ニ踊子かげま女方ニ白
無ニハ義堅御法度ニ候ニハ当向後弥右ニ者一切仰方
白も無ニ中万数ハ若相背右ニ者ハ仰方へも無ニハて
見合次第捕ニ言者ニ至人ハ不及中家ニ至ル人組と
急度曲事ニて申付者也
戌七月

元禄七戌七月廿八日ニ仰渡

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

前々ら 仰付ハ無り粗云座聖良子供之義一座ニ成拾
人ツ并卿良下地之子供拾人ツ座元斗抱て中
分ら 仰付ハ無向後役志ニ方々卿良并聖良下地
子供之人義抱させ中ニ而義ハ聖良月代之後前々
ニ 仰付ハ無判さげて中ハ勿論聖良ニ之後他所へ
其ニ而義ニ不及中ニ合之客為致中ニ而義ハ役志抱
ハ義も七月分十月晦日之比内抱て中ハ
右之通堅相当て中分ニ付義ニ 仰付ハ其ニ於相当ニ
加判之者ニ曲事ニてら 仰付分座元家主ニ而人組

名主ニ御説文ら 仰付ハ以上
戌七月廿八日

元録七戌年八月十一日中渡

一堺町勘三郎菅屋町竹之丞木挽町長右衛門勘弥
并家主ニ而人組名主橋屋茂右衛門後へ ニ右呼ニ中
渡ニ先日も中渡ハ聖良子供月代之後判廣ケハ給ニ
中渡ハ如来判セ不中ハ由相呼ニ而如前々月代判廣ケ
させて中分ニ中渡ハ

元録八年亥八月廿四日内約連判

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

一前々お鍋い狂云芝居理良浪人理良又ハ役者ニ
不お前髪有之者并女之踊子かけま女方ニハ無之候
望法度ニ以ル向後右之者ハ一切何方へも無ル事
ニ而お鍋い所ニ須ル所ハ又ハ躰ニも右之者ハ
出ル也お咲不屈ニハ孫以向後右之者ハ何方へも無
ふ中勿論躰ニ而も望出し中ル事ハ若お背者ハ
いて見合次第百捕へ其者ニ主人ハふ及中家主
五人組之急度曲事ニ申付者也
寅八月

元祿十年丑正月八日御所中連判

一前ハ也お鍋い恵狂云芝居野良并浪人理良之義
法度ニ以ル孫お当何方ニも望無中ル事ハ若お背
何方ニも無之ニて其主人ハふ及中家主五人組之急度
曲事ニ申付ル事

一狂云芝居ニ出ざ家とのハ大勢為中合方ニハ無役者
ニ其ニ藝仕ル由お咲ニ向後大勢為中合何方ニも
望無ル事ハ若お背ニおゐて其者ハ不及中主人
又ハ家主之急度ニ申付ル事

右之報堅て相当者也

丑正月

元祿十二年卯四月廿五日 御觸

一 前々も相觸之通ち女踊子孫抱重なるかせ中方数事

一 堺町末挽町雅良月額前々定有之ニ当 毎町之

卿良孫以定之通 繋うまくて仕ひ毎町之野帝勝

白不出ひ二付 藝有之者者之町人ニ成り屋数方へ

なるまひ也 相笑不届ニひ右掛之族一切無之掛ニて仕事

以上

卯四月廿五日

右御觸之之同廿八日 町年寄白 名主 月行事

乗り請判致ひ

元祿十四年巳十一月十一日 御觸町中 連判

頃日もや里ひ出海 堺町末挽町兄相取ニ当ハ格別

ニ外出海ひ者之分屋数方へ出ひ後堅無用なる

へし ニ外町中ニ出海ひ出ひ後今停止ひ条 右者

賣ニも一切仕事数ひ若於相背ハて為曲事ひ以上

巳十一月十日

国立国会図書館 燕石十種. 第60冊 わ081-10

ガラス使用

元祿十六年未四月十八日御觸連判

一前々分お觸ハ一付堺町本挽町雅郎たハ外へ不出ハへた
白人ニ為藝ニ而町人ハ組合屋敷方ニ居るき又通子
抱金為致徘徊之事是又今停止ハ和漢日ゆるゝ
給お望不届ニハ向後右拾之輩於ハ當人ハ不及
中家主并又人組名主迄急度ヲ申付事

一惣ゆかりたる見世をのホ孫停止之事

一操人形之衣類黄麗ニ無之惣ゆ目立ハ人形之仕方ホ
一切仕ゆ、發事

右之通堅ヲ申ゆ者也

未四月

寶永三年戌三月廿九日御觸連判

一博賣仕ゆ發分前々分度々お觸不用族ハ此仕金ニ成
申付ハ給ハ又々頃日町中ニおゆて前々迄無之旅人ハ
集り致博賣之事お望不届ニハ近日同心ハ相見シ博賣
仕ハ者ハ捕ヲ申ハ

一博賣之儀ハ人大勢集ハ儀ニ之ゆ家主又人組も人付
ヲ申義ニハ而無之通り致其者ハ隣ハ不届ニハ向後ハ

町切に並吟味名主迄訴ゝ又ハ出ニ事行所にも
て中出し若隠密外ゟ相知ニ出て家主ゟ人組名主
迄て為越度し

一 粗云芝居之聖良并浪人郎命又ハ役者ニ不出前
髪有ゝ者方ニ致御徊由相望し前ニゟ法度之所
不届ニ向後弥何方へも望者中ゟ為し若相背者
於其ニハ其主人ハ不及中家主ゟ人組迄急度
曲事ニて中付し
右之條ニ急度相觸て中ニ以上

戌三月

寛永三年戌六月十六日内御連判

一 女踊子為致御徊ゟ為前ニ相觸し前迄年猥ニ
成不届ニ向後女踊子弥今停止し并始と中ゟ
屋敷方町方ゟ出し候も有ゝ猥ニ粗沙汰有ゝ
是又右同前之事

一 前ニ相觸し通り其云人又ハ綿摘と名付抵女ゟ為
者弥町中ニ居密中ゟ為し事

一 粗云芝居之郎良浪人聖良浪人役者并白人ニ

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

鼓狂云々の方々ニ而あるきハ儀制禁之前ニ又々前ニ
鼓御徊由お望不届ニ而向後狂云芝居之野良孫
以外へ帰るかを申る發ハ是又浪人野良浪人後志
白人之由ニ而申合鼓狂云帰るきハ其の孫 今
停止事
戌六月

寛永四年亥二月十八日

一堺町菅屋町木挽町芝居 御成之日ハ止ル
御成終日ハ格別事ニ 還御之節ハ

還御之日芝居お始メ下中分今日松野寺波当孫
此内家合ニ而御渡ハ事

寛永五年子五月九日 御所中連判

京地ニ於所々芝居鼓座本ハ志并後志又ハ
町人之内ニ而も 其所所ニ而ニ今之ハ芝居ニ立
ニ而も向後ニ右之者ハ月番之書所へ御所捨
を更下中ハ若無所芝居ニ立又ハ後志仲ヶ月ニ
おかりハて急度曲事ニ下中付ハ
右之銘町中下お觸ハ以上

国立国会図書館 燕石十種. 第60冊 わ081-10
ガラス使用

子五月

寛永五年子十二月十六日申渡

一 樽屋茂右衛門 堺町 菅屋町 本挽町 狂言 座
口人地主五人組月行事名主 右呼聖良 役者
衣裳之儀 毎度ニ 仕渡有之ニ前 又ニ此度
御事行所ニ急度ニ 仕渡ニ曾 法度之衣類
雲忌用為致ニ 曾 合ニ 中渡 書院 御文ニ 仕候

寛永六年丑七月六日 内鶴町中 連判

一 狂言 芝居 野郎 并 狂言ニ不出前髪有之者 外ニ
雲老ニ曾 曾 前ニ今 停止ニ 此 頃日 右之族方ニ
乗り 藝致ニ由 相聞不届ニ向後 本挽町 堺町
野郎 子供ハ不及申 役者 又ハ白人ニ曾 藝致ニ者
一切 外ニ乗ニ曾 曾ニ此以後 於相背者ニ為曲事ニ曾
此 曾 町中 急度ニ相觸ニ以上

七月

正徳元年五月六日 申渡

一 松野 壱波 多様ニ 本挽町 狂言 座長 太夫ニ 右出
ニ 仰渡ニ 芝居 狂言ニ仕舞 狂ニ入ニ 致ニ 儀

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

火之元無之元義ニ以ル向後萬六時前ニ粗云右
仕廻ハ給ハ仰渡ハ火方ハ本行佐久ル小左衛門
ハ也ハ右ハ同給ハ仰渡ハ

正德四年年三月九日

一中山出雲ヲ係ハ裔所ハ堺町勘三郎菅屋町
竹之通木挽町勘源并右三町菓屋ヲ以ハ右出
松野壽波ヲ係　坪内能光ヲ係ハ立合ニ向後
芝居被方菓屋ヲ任居ホ之儀ハ仰渡ハ御覽
ハ仰付ハ右ハ書付写并ハ御覽文写

一粗云芝居之棧敷近年二階三階ニ仕ハ以前之通
一階之外ハ無用之事

一棧敷ノ内諸屋を掛ヘ木屋又ハ座元之居處并菓屋
ホニ座敷を志つらる為拵奥之儀ニ為無用ハ無ル
粗云役者舞臺ニ藝被しハ外或ハ棧敷又ハ
菓屋ホ口呼ハ其一切差越中ニ敷ハ尤自分處ニ
ヲ拵奥ヲ客呼中ニ敷之事

一棧敷ニ出ル事を是ハ事無用ニ仕幕屏風等
何ニ不依圖ハ儀ハ止メ見通しハ給て仕ハ事

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

一 芝居之屋根為天之芸も近年ハ狂云所成り給
仕ハ是も前々之通屋根のみにて致ハ事
一 狂云役者衣類近年莫麗之所成り当向後結紬
木綿用之て申事
一 狂云舞之勢り呼のりを立仕ハ後望無用之仕七半
時分ニハ仕舞り給ふ致事
一 狂云芝居を取之茶屋かゝ仕産数ヶ月数義
一切無用ニて仕ハ只今之有来ハ分も町年行所ニ
て許之吟味之上て申付事

右之通急度て当之於相背之当人ハ不及申
之町々名主ハ人組之て為曲事者也
午三月

芝上申手形之事

一 私共後狂云ニ舞産ニ所出ハ外見相之者様数へ
法呼又ハ茶屋ニ法呼と成ハ其所銭申月数合
之 師付年長ハ縦何相之義ニ法呼ハ荒有之
ハ其或ハ様数或ハ茶屋ニ一切所銭申月数ハ

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

尤自分之電にも於其之客一切呼中可發之事
一衣類之義給紬木綿を用ひ下中合ハ　仰付
是又有畏ハ向後孫舞蹇衣裳并衣類其給紬
木綿之外莫屬之物一切差中可發之事
右之通急度相當下中ハ若相背中者ハ座ハ何
相之曲事ニも下ハ　仰付ハ為後日役者連判
仕差上中ハ
正德四年年三月
野良
役者

大智
右之通拙者座ハ抱金中ハ役者其不孫百連中ハ
此外拙者座ハ抱金ハ役者其人も無此座ハ以上
座本
行之通
浪人役者菁屋町ニ無之ハ
右之通行之通座之役者其吟味仕詫文中付ハ
此外町内ニ座元抱之役者并浪人役者其人義
無此座ハ以上

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

正徳四年午三月

舊屋町
月行事 清左衛門
同 清三郎
名主 庄左衛門

右ハ行ニ亟諸久勘三郎勘孫ヲ同文云

正徳四年午三月十三日内鈎

山村長右衛門
庄ヶ下鈎入札

一木挽町長右衛門 産機發同建具穴蔵并諸
道具ニ外ニ用人居宅同建具ニ蔵穴蔵
衣類諸道具ニ拂入札ニ 仰付ニ当ニ重ニ来ル

明後十五日不来時場所へ乗り取ニ致見分入札て
仕合町中ニ渉て云ハ右鈎ニ以上

三月十三日

町年寄
三人

右芝居并穴蔵三ツ代金百三拾六両余ニ蔵
居宅代金弐拾四両弐分右弐口南端町平左衛門
若六落札
衣類諸道具一式代金八拾五両余ニ左衛門
町七郎右衛門落札

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

午三月十八日 路々汀渡ゟ 仰付ハ

正徳四年三月十八日

一 出雲ゟ掾ハ内蒙合ニ堺町 菁屋町 本挽町 名主
ニ 石出芝居 普請致方不宜ハ 願急度ゟ 仰渡ハ

同月同日

一 江戸中寺社地ニ 有之芝居九ヶ所ハ 寺ハ 仰 所へ
石出向後ハ 停止ニ 仰付七日 跟芝居ニ 拂中ハ 路
ニ 仰渡ハ 右ハ 書付之写
寺社境内ニ 有之 能説 緯操 拍手 稽 芝居之事

元録年中停止ハ 処訴訟之為有之事 言法を建
ら 是芝居ハ 無之 揃へ 衣類ハ 是ニ准し 中付
ハ 如読事 諸 揃ニ 及ハ 以身不届之 至ニ 依之 自今以後
彼芝居ハ 一切禁制 中付ハ 者也

午三月

正徳四年午四月六日

一 堺町 菁屋町 名主明 六日 朝 不時 お 粗 云 雖 彼 志 其
衣 装 不 残 持 条 座 元 勤 三 郎 行 之 並 石 連
寺 波 ゟ 掾 ハ 内 蒙 合 へ て 石 出 合 ハ 芝 浅 ニ 付 翌 六 日 所 お

国立国会図書館 燕石十種. 第60冊 わ081-10
ガラス使用

以知右衣裳法改ニ極レ上諸々不書出来右之外粗云々
恐仕レ衣類一切無法産若法度之衣類恐仕レ可ニ
括之曲事ニ可ニ 仰付ニ也粗云聟り以ニ衣類仕聟
以ニ法許ニ中上ニ合法諸文ニ 仰付ニ已来ニ本紅ニ云々
法構成不ニ法停止ニ之事ニ 仰渡レ

同月九日

一堺町小芝居中村八十八芝居粗云々ニ用レ衣類居ニ
不ニ残ニ持来今七時八十八并座元長ニ清家ニ至ニ人組
名ニ呉源 壱波ニ掛法番取ニ 石出右不々

法改之上ニ 仰渡レ之後粗云座之括式若
ニ勤ニ市 蒲之衣類ニ仕聟レ 用可中分
ニ 仰渡レ

享保二年丙十二月十八日中渡

一堺町菁屋町木挽町粗云座操座并名ニ呉舞村
壱右衛門ニ 石呼呉之 御成前日ニ芝居
ニ休来レ知向渡ニ 御成前日も芝居無構
奥行ニ致ニ 中渡レ

国立国会図書館 燕石十種. 第60冊 わ081-10
ガラス使用

右對死
御殿

享保八年卯二月廿日御殿

一男女中合ニ而お果ハ老ニ候自今ハ死骸を捨一方存命
ニ而下手人ニ中付尤死骸吊ハ事停止て中付ハ
且又双方共存命ニ而三日晒之上非人手下ニ可中付
事

一惣る此頃絵双紙并奇麗妓狂言ニ能りハ事望仕
る者ハ若お背ハて急度て中付ハ事
右之趣ハ 御渡ハ町中て觸知者也
卯二月

一菅屋町狂言座行之亟名之座左衛門喜多村彦右衛門
度ハ右ハ右ハ御渡ハ此度
西御丸ニ 若君様御誕生ニ付 御名を
行ニ代様ニ事中ハ行之亟改名仕ハ候ハ御渡ハ
霧之亟ニ御改中度候中云翌九日ハ右出船之名ニ
御改下中ニ候ハ御渡ハ先年之名ニ御宮左衛門ニ御改
中度中ニ候下ニ候ハ別ニ候同十一日夜御書面町内ニ
成ハ此面中云
但宮左衛門義寛延元辰年十月廿二日 狂左衛門ニ

国立国会図書館 燕石十種. 第60冊 わ081-10
ガラス使用

文字おとし申候事家長屋市左衛門殿ハ此頃申上候
同廿九日勝手次第おとし申候ハ
延享二丑年二月廿三日申渡

一 菅屋町狩立座宮左衛門殿ハ居屋市左衛門
殿ハ 此右ハ百ヶ字ハ 名前おとし申候ハ 其
右宮左衛門悴満蔵義 行之丞ト おとし申候ハ 此間申上
候ハ おとし申候ハ 同廿五日 寛蔵ト 改名仕候
此届申上候

寛暦十二年午十一月二日申渡

一 堺町勘三郎菅屋町狩左衛門 木挽町勘係名ハ 次郎
同店左衛門 同七左衛門 家長屋市左衛門 殿ハ 此右ハ 左
之通 此申渡ハ
申渡
此度御誕生之 若君様御儀 行手代様ト 奉称ハ
旨 行之字附ハ 名おとし申候ハ 其姓名ハ 不及改ハ
右之類従町御奉行 而ハ御渡ハ 此旨 可渡ハ 其
唯今之 行之字附ハ 名ハ 有之旨 愛ハ 得ハ 深前書
之通 右人頭申候ハ

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10
ガラス使用

十一月二日

同年十二月廿七日申渡

一 森多村彦太郎殿ニ 堺町 名主 次郎兵衛 菅屋町 同
庄左衛門 本撓町 同 七左衛門 ニ 右ニ申渡ス 此度
御出生様 御名 松平貞次郎様ト 奉称 若
右之御名ニ似寄ニ名前も有之ニ付ニ 為 相改ニ候
ニ申渡ス

同十三年九月朔日申渡

一 森多村彦太郎殿ニ 堺町 名主 次郎兵衛 菅屋町
同庄左衛門 本撓町 同 七左衛門 ニ 右ニ申渡ス 右之通ニ申
渡ス

申渡

来ル六日 若君様 山王ニ 御乗給ニ付 堺町菅屋
町 本撓町 芝居ニ義 右止ニ 可渡ス 此度ハ 狂云 可渡ス
旬 編 火之元大切ニ 可仕ス
右之通ニ申渡ス 以上

来九月朔日

右古書留紙出之為ニ 掛 写 無之ニ 也

国立国会図書館 燕石十種. 第60冊 わ081-10
ガラス使用

特別
よ
61
3

弘化二巳年正月

安田氏

文久三年癸亥十一月上浣流觀一過

江戸書儈

二世

達磨屋左七活東子

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10

ガラス使用

081
10
31止

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10

ガラス使用

国立国会図書館　燕石十種. 第60冊　わ081-10

ガラス使用